

協働の地域づくり活動状況

令和6年9月27日（金）

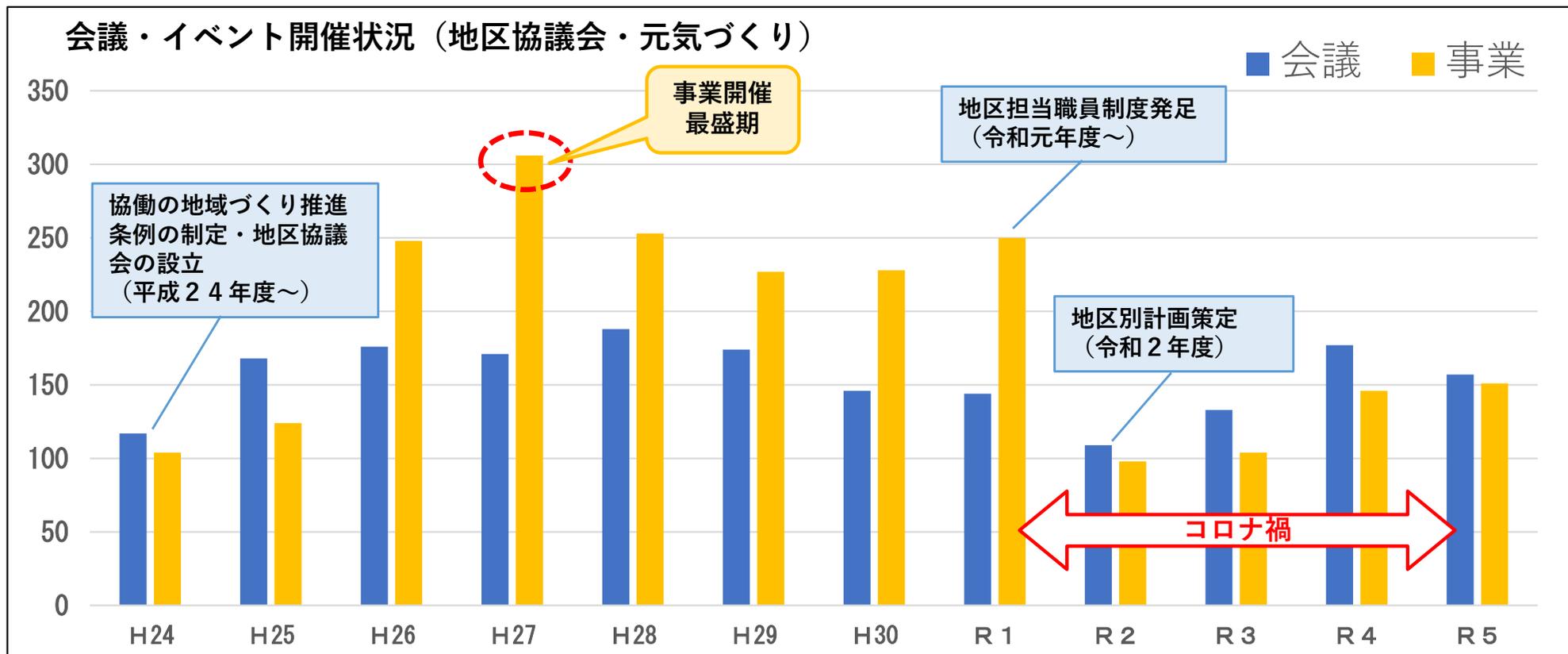
令和6年度第1回荒尾市地域づくり推進委員会

1. 地区協議会について

(1) 設立からこれまでの活動経緯（平成24年度～令和5年度）

平成24年度に「荒尾市協働の地域づくり推進条例」を制定し、各地区に地区協議会が設立されて、12年が経過した。これまで地区協議会は地区の代表組織として、地区内の情報共有や連携強化を図り、また、各種事業の開催を通して、地域の活性化や交流促進に向けて取り組んできた。

しかし、令和2年、日本で新型コロナウイルス感染症が発生して以降、地域活動を取り巻く環境が大きく変化し、協議会活動は実施できず、イベントや事業は中止や延期が相次ぎ、地域の交流や活性化に関わる重要な機会が失われた。その後もコロナ禍が続き、地区協議会は様々な制限を受けながら地域活動を行っていたが、昨年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行したことを機に、事業の活発化や新たな事業の開催にも積極的に取り組む地区もあり、復調の兆しを見せている。



(2) コロナ禍の活動について（令和2年度～令和5年度）

	コロナに関する主な動き	地区協議会活動実績	地区協議会活動状況
令和2年度	緊急事態宣言の発出。 (R2.4月～) ワクチン接種開始。 (R3.2月～)	【会議】 開催 / 109件 中止 / 34件 【事業】 開催 / 98件 中止 / 76件	各地区の大規模な祭り・イベント等の多くが中止となり、総会や会議等についても書面開催や時間短縮運営による対応となった。 ワクチン接種が概ね完了するまでは活動に慎重な地区が多かった。
令和3年度	まん延防止等重点措置が各都道府県に発令。 (R3.4月～)	【会議】 開催 / 133件 中止 / 38件 【事業】 開催 / 104件 中止 / 56件	地区の定例会議等は徐々に再開し、さらに、ワクチン接種が進んできたこともあり、屋外事業(ウォーキング大会、グラウンドゴルフ等)は開催傾向となった。しかし、大規模な祭り・イベント等は開催が難しい状況。
令和4年度	マスクの着用について、個人の判断に委ねることとなった。 (R5.3月～)	【会議】 開催 / 182件 中止 / 5件 【事業】 開催 / 146件 中止 / 17件	地区の定例会議の開催はコロナ禍以前の通常通りの開催に戻ってきた。事業については、感染対策を徹底しながら、大規模事業(祭り等)の開催した地区もあった。しかし、高齢化や人員不足等の影響で、コロナ禍からの再開が困難となり、中止となった事業もあった。
令和5年度	新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行。 (R5.5月～)	【会議】 開催 / 157件 中止 / 3件 【事業】 開催 / 151件 中止 / 9件	新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行したことを機に、事業の活発化や新規事業の開催にも積極的に取り組む地区もあり、復調の兆しを見せている。また、会議・事業の中止の理由としては、天候不良や人員不足となっており、コロナを理由とした事業等の中止は0件であった。

※中止の数は、当初計画していた事業のうち中止になった数を示している。

(3) 地区協議会の現在の活動状況

地区協議会はこれまで、新型コロナウイルスの影響で様々な制約を受けながら活動を行っていたが、ようやく落ち着きを見せ、コロナ禍以前の活動状況に戻ってきている。

しかし、コロナ禍の期間を経て、積極的に事業再開を進め、新規事業にも取り組んでいる地区がある一方で、役員の高齢化による組織力の低下等が進み、コロナ禍以前の活動を再開できていない地区もあり、各地区協議会の中でも活動内容に差が生じている状況である。また、事業への参加者数も以前に比べて減少している等、新たな課題も浮き彫りとなっている。

上記の課題含め、各地区では、以前から担い手不足や役員の固定化が課題となっており、若い世代が参加しやすい新たな事業の開催や時代の変化に合わせた新たな組織の在り方や見直し等について、協議していく必要がある。

令和6年度 第1回荒尾市地区協議会会長会

地区協議会の活動の向上や連携・協力を深めることを目的に、各地区の代表者による地区協議会会長会を開催。7月に開催した第1回目では12地区の会長より、各地区の活動状況、今後の活動予定等についての報告が行われた。事業の開催については「昨年度と比較すると様々な事業を開催できた」「今年度は新たな事業の開催を検討している」等、活発な意見が挙げられた。

しかし、事業参加者数の減少や事業の準備に手伝ってくれる方が少なく、人手不足が深刻となっているなどの意見もあり、各地区で少子高齢化・人口減少がさらに顕在化している。

一方、「いろんな課題があるが、やれることは全部取り組んでいき、長く活動することによって、活動の方向性が見えてくる」といった、活動を継続していくことの重要性を感じているという意見もあった。



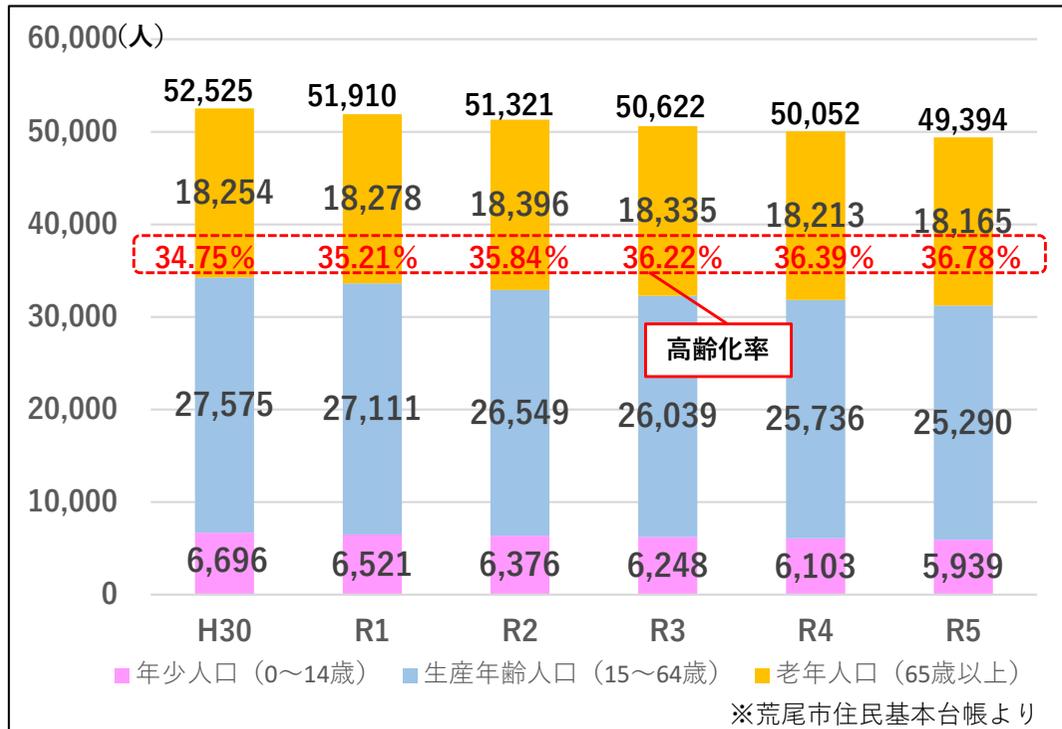
▲ 開催の様子

2. 本市の地域コミュニティの現状

本市は、これまで「協働の地域づくり推進条例」の制定や「地区協議会」の設立等を通じて地域コミュニティの活性化に取り組んできた。しかし、少子高齢化や人口減少等の影響により、役員の高齢化、**地域の担い手不足が深刻**となり、さらに、地域福祉や防災等の**地域課題も複雑化・多様化**しており、地域コミュニティを取り巻く環境は年々厳しさを増している。

特に地域コミュニティにおいて、重要な存在である自治会について、本市の加入率は令和5年度の調査時点で80.5%となっており、コロナ禍前の平成30年度調査時から、ほぼ横ばいの状況である。しかし、平成21年度の調査時は92.5%であったため、14年間で約12ポイント低下しており、長期的に見れば、**減少傾向**にある。低下の要因としては、単身世帯の増加、高齢者雇用の増加など、ライフスタイルの変化によって、自治会活動への参加が難しくなっていることが考えられる。自治会加入率の低下は本市全体の地域活動に影響を及ぼす恐れがあり、地域コミュニティの機能の低下が懸念される。

■ 荒尾市人口推移（H30～R5）



■ 荒尾市自治会加入率（H30～R5）

